

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ハロー？ 和阿苦の守の斡旋所」

テーマ:「怪奇現象が苦手なのに、妖怪達のまとめ役な美少女」

キャラクター

45

ストーリー

35

テーマ(設定)

50

文章力

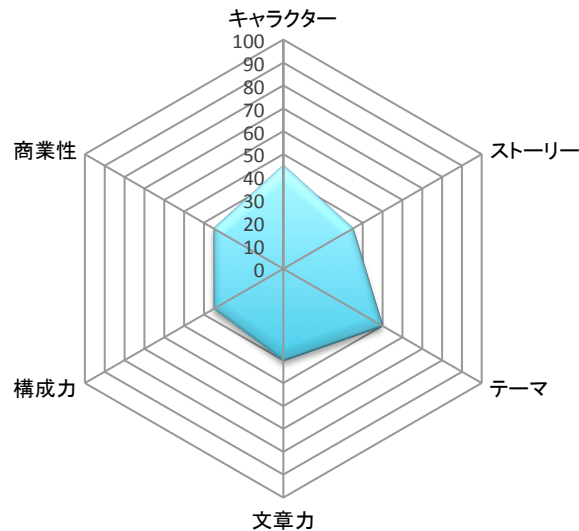
40

構成力

35

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・妖怪ハローワークという設定が非常にオリジナリティあふれるもので、読んだ瞬間の「これは面白そうだ」という期待感とインパクトは非常に大きいものであった。恐らく企画投稿ベ切時間と制限枚数によって書きたかったストーリーが書けずに終わってしまったものと思われるが、その分その設定を生かしたストーリーライン・起承転結がなかった点について悔やまれる。

・特に起承転結の流れを決めないまま、とりあえず多射中の告白エピソードを出してみたという印象を受けた。特に何を書くかが決まっていなかったため、作者様自身がどこに着地点をおこうか手探り状態で書いていったことが枚数の足りなくなった原因であると思われる。妖怪達のかけあい自体は非常に面白く描写できているので、妖怪たちにとっての何かしらの障害を登場させ、そのかけあいがその障害を乗り越えようと努力している過程のかけあいにする事で、物語に方向性が生まれて今より更に面白い作品になったのではないかと感じた。

合計加点ポイント 0

総得点: 240 / 600

B方式総合得点: 9600 点